

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3771700790
法人名	株式会社たくま福祉サービス
事業所名	グループホームせとの家
所在地	香川県三豊市詫間町詫間2073 (電話) 0875-83-4123

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価決定日	平成19年10月17日

【情報提供票より】19年4月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 7月 15日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	11人 常勤 8人、非常勤 3人、常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5階建ての2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~35,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,150円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.8歳	最低	79歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永康病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、詫間町中心部の住宅街や商店街に位置し、近くに浪打八幡宮等の自然環境に恵まれている。ユニットは建物の2階にあり、静かで明るく清潔なホームである。
職員は、利用者一人ひとりの生活歴を尊重し、利用者が家庭的な雰囲気の中で、自分のペースで安心してゆったりと日々を過ごせるよう支援されている。また、協力医療機関とは、24時間対応の協力体制であるため、夜間の緊急時でも安心して生活できている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・計画作成担当者を中心に、良いチームワークで、ケアサービス分野について、具体的に改善できるところから改善に取り組みつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、サービスの質向上のための意欲的な取り組みが見受けられる。自己評価作成は関係職員全員で話し合い、サービスの質の向上のため、一丸となった取り組みを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、事業所からの状況報告、提案事項は十分な理解を得ている。また、その中の貴重な意見を、サービスの質の向上に、具体的に活かしていく取り組みがなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時には必ず声をかけ、ホームでの利用者の様子を報告し、家族の意見や要望を聴いている。家族等から得られた意見は、記録に残し、職員間で共有し、運営に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し、まず職員が地域の清掃行事に参加している。ホームでは、地域のボランティアによる大正琴、銭太鼓の演奏や、デイサービスの方が訪問しているが、地域住民との交流には至っていないため、今後の取り組みに期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすい表現で、実行しやすい項目を理念に掲げ、全職員が共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、毎朝のミーティングや体操の中で、理念を利用者と一緒に唱和し、共有している。また、日々のケアの中で理念の実践に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域の清掃等に参加している。地域の活動の場や天気の良い日は、散歩・買物に出かけ、地域の人々と気軽に声をかけ合って交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解している。評価を活かし、具体的な改善に取り組んでいる。関係者全員での自己評価には至っていない。	○	自己評価の作成は、関係者全員で話し合い、一丸となった取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3か月ごとに開催し、事業所からの状況報告・提案事項等は、十分に理解されている。貴重な意見をサービスの質の向上に具体的に活かしていくよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外にも、支所にホーム便りを届け、連絡を密にし、サービスの向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2か月に1回、家族へ写真入りで現況報告を送付し、信頼関係に努めている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に苦情・意見の連絡先を明示したり、家族の面会時には、職員が意見や要望を聞き、運営に反映されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、職員の異動・離職者の件数は少なく、家族・利用者へは伝えていない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内では定期的に研修を実施している。法人外の研修案内は職員に周知し、希望者には参加への配慮をしている。職員の研修への参加意欲は、十分に見受けられた。</p>	○	<p>全職員のさらなるステップアップのため、職員の段階に応じた研修を受けられる取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修に参加し、ネットワークづくりを通じて、サービスの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談し、利用者が納得した上での外出等、職員や他の利用者と徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の立場に立って、家庭的な雰囲気づくりに努め、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から今までの生活状況を聞き、本人の思いや希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を聞き、職員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回は見直しを行っている。管理者と職員は、毎月1回のミーティングを行い、状態に応じた見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院の支援や本人・家族の要望により、デイサービス・ボランティアの人との交流を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時等に、適切な医療を受けられる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から家族・医師と話し合い、職員は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応を、職員間で共有している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物・散歩など、利用者のペースを優先した暮らしができる支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕の食事作りは、提携介護事業所のせとうち福祉サービスへ外部注文している。利用者と職員が、同じテーブルで会話を楽しみながら、一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は2日に1回、時間帯は13時から15時のため、利用者の希望やタイミングよりも、職員側の都合を優先した支援となっている。	○	利用者の希望に添った時間帯を決め、入浴が楽しめる支援体制を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、折り紙や洗濯物たたみの役割、楽しみごと、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、天気の良い日は買物や散歩等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の安全面を優先し、やむを得ず鍵をかけることがある。	○	鍵をかけずに、利用者が安全に過ごせるよう、目配り、気配りなどを重視した今後の取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、年2回の防火訓練を行っている。ホームには、町内の防災無線を設置しているが、訓練に地域の消防署・住民等の協力を得られるまでには至っていない。	○	消防署・自治会等の協力が得られるよう、積極的な働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	某院の管理栄養士が献立を作成し、カロリー計算等の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、利用者の行事参加の写真や季節感を取り入れた折り紙を掲示し、ゆったりと居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物品や思い出の写真を飾り、ベッドの配置にも居心地よく過ごせる工夫をしている。		